

1、豚血清20例の内補體結合反應に於て9例が強乃至弱陽性反應を呈し沈降反應に於ては11例が強陽性乃至弱陽性反應を呈したり。而して心筋並に横隔膜に於ける本蟲體檢索の結果叙上9例中7例に於て之が寄生を認めた。

2、牛血清15例の内補體結合反應に於ては4例が中等度乃至弱陽性反應を呈し、沈降反應に於ては7例が強乃至弱陽性反應を呈し、心筋並に横隔膜に於ける本蟲體檢索の結果此の4及7例中4例に之が寄生を證明した。

3、馬血清12例中補體結合反應に於ては2例が又沈降反應にありては5例が強乃至弱陽性反應を呈した。而して心筋並に横隔膜に於ける住内孢子蟲寄生の有無を検索するに2例に於て之が寄生を認めたり。

4、補體結合反應並に沈降反應の強弱は蟲體寄生の多寡との關係に概ね平行する。

5、豚寄生並に牛寄生本蟲體抗原に對する補體結合反應と沈降反應を比較するに豚寄生蟲體抗原並に牛寄生蟲體抗原に對する補體結合反應は略々平行し、又兩抗原に對する沈降反應も亦略々平行する。又同一抗原に對する補體結合反應と沈降反應を見るに略々同様に反應し反應に大差を見ずと。(桑原抄)

#### Brown Pearce 系癌腫の酵素學的 研究(VI)

Brown-Pearce 系癌腫家兎の腫瘍、  
並に肝、腎、筋及睾丸の「オキシダー  
ゼ」に就て

森 義一

同 誌

片側睾丸に移植して得たる Brown-Pearce 系癌腫家兎を其臨床的症狀並に病理解剖的見地より、癌腫初期群、中期群、末期群の3群に分ち睾丸原發及肝、腎、淋巴腺轉移癌瘍の「オキシダーゼ」作用に於ける腫瘍組織の老成變化(新鮮、過熟、壞死)に伴ふ消長を検索し、併せて肝、腎、筋、及睾丸の「オキシダーゼ」量を測定して之が消長と全生體の癌腫症性變遷經過との關係を觀察した。(桑原抄)

#### 實驗的海猿再歸熱の再發に就て

山下 朝橘

同 誌

實驗的海猿再歸熱の再發に關する實驗成績は次の如き結論を得た。

1、海猿の再歸熱感染狀態は、大量接種に於ても又少量接種に於ても直接血中に「スピロヘーテ」を證する例と間接に「マウス」に「スピロヘーテ」を證する例との2型を認めた。

2、而して血中に出現する「スピロヘーテ」數は接種量の大小に拘らず極めて少數にて且著しき増殖は認められない。尙血中に「スピロヘーテ」を證する期間は試験により區々である。

3、接種量が一視野50條の「スピロヘーテ」浮游液 1.0cc の「スピロヘーテ」數より大なる時は少數例に於て再發發作を 1—2 回認めたり。

(桑原抄)

#### 海猿再歸熱の實驗的研究(VI)

感染海猿に及ぼす免疫家兎血清の  
影響(3)

小林 樵夫

同 誌

奉天系再歸熱感染海猿に同株耐過免疫家兎血清の夫々異なる量を注射して出現する「アグロメラチオン」効果を測定し、免疫血清が感染海猿に及ぼす影響を觀察し、耳翼血管血液に就て直接に「スピロヘーテ」を検索し、免疫血清注射後24時間の該海猿血液を「アウス」に接種して間接に「スピロヘーテ」の検出を試みた。(桑原抄)

#### Brown-Pearce 系癌腫の酵素學的 研究(VII)

Brown-Pearce 系癌腫家兎の腫瘍  
並に肝、腎、筋及睾丸の「ベルオキ  
シダーゼ」に就て (附全編の總括)

森 義一

皮膚科紀要 33卷 5號 昭和14年5月

片側睾丸に移植して得た Brown-Pearce 系癌腫家兎を、其臨床的症狀、並に病理解剖學的見地から、癌腫症初期群、中期群、末期群の3群に分ち睾丸原發及肝、腎、淋巴腺轉移癌瘍の